

各地の取り組み－兵庫県における植物防疫業務の取り組みと新しく発生した病虫害－

兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター病虫害部兼病虫害防除所 相野公孝

■兵庫県農業の概要

兵庫県は北は日本海、南は瀬戸内海（一部太平洋）に面し、中央部には中国山地が東西に横たわっている。高原、平野、島々など変化に富んだ地形と、それに伴った様々な気候を示す地域で構成される。また、それぞれの地域に根ざした多彩な農業が行われている。農業生産については、酒米（山田錦）、黒大豆（丹波黒）の生産が全国 1 位であり、他にレタス、タマネギ、イチジク、カーネーションなどが主要農産物として生産されている。

■病虫害防除所の概要

本県での植物防疫業務は、農政環境部農業改良課が窓口となり、実務は病虫害防除所が行っている。1987 年に 4 防除所が統合され、1 防除所となり、2002 年に農林水産技術総合センターの内部機関として現在の体制となった。職員は所長 1 名、研究職 11 名、行政職 1 名 合計 13 名と中核防除員 20 名、一般防除員 50 名で構成されている。

■病虫害防除所の業務

防除所の業務として、指定有害動植物の発生予察（25 病害、56 害虫）、重要病虫害の発生予察（51 病害、57 害虫）を中心に病虫害診断、農作物病虫害雑草防除指針の作成及び農薬安全使用研修等を行っている。また、病虫害防除員の資質向上のため病虫害調査法研修会を実施し、さらに、今年度から水稻病害調査に関して、広く情報を得るために、県下 13 か所に設置している農業改良普及センターの調査結果を収集し、迅速でキメの細かい情報発信に努力している。現在、予察調査結果の共有を目的として、防除所、農業改良普及センター及び防除員の行う調査野帳のフォーマットを統一し、入力ソフトの作成を行い、より早く詳細な情報を発信する準備を行っている。

■病虫害防除所の取組

近年、急激なグローバル化により、海外から多種多様な方法で、植物が輸入されるように

なった。家に居ながらインターネットを介して海外の商品を簡単に購入することができる一方、海外からの病虫害侵入の危険度が高まっている。不幸にも植物検疫の網の目をくぐって病虫害が侵入する可能性も否定することができない。また、本県で新しく発生する病虫害も増加傾向を示している。

ここ 10 年で新しく発生した病虫害はウメ輪紋病、ジャガイモやせいもウイルス、トルコギキョウ葉巻病、トマトすすかび病、キク茎えそ病、イチジクモザイク病、ブドウえそ果病、チャトゲコナジラミ、ミナミアオカメムシ、ピーマン炭疽病、レタスバーティシリウム萎凋病、レタス疫病、レタスピシウム萎凋病、バラ炭疽病等がある。特に、ウメ輪紋病は、2012 年 7 月に伊丹市の盆梅育成園地で確認され、2013 年 2 月に伊丹市、宝塚市、川西市及び尼崎市の一部が緊急防除の防除区域に指定された。今後、さらに、植物防疫の重要性を再確認し、県内での新病虫害の拡散防止に力を入れる必要がある。



図 1 病虫害診断



図 2 ウメ輪紋病調査